

1. 授業の概要(ねらい)

本授業では、持続可能な観光と交通をテーマとする。観光地域では、オーバーツーリズムといった過剰利用等により環境負荷が増大し、貴重な観光資源そのものが毀損され、快適性の低下に到るなど国際的に大きな問題として捉えられてきている。ツーリズムの形態が団体旅行から個人旅行にシフトし、地域が主体となって推進しているグリーンツーリズム、エコツーリズム、アドベンチャーツーリズムといった、自然を守りながら、観光を楽しむ旅行形態が重要な役割を果たしてきている。こうした環境変化の中で、日本政府もSDGsの達成に向け、観光立国推進の重要な柱として位置付け、持続可能な観光の実現に向けて取り組みを開始しており、観光産業全体で推進の動きが出てきている。本実務演習において、持続可能な観光地域づくり並びにそれを支える交通について、スマートシティ・MaaSの動向も踏まえつつ、現状と課題、今後の展望について考察する。こうした持続可能な観光地域づくり、交通に深い知見を有する関係者をゲストスピーカーとして招聘し、持続可能な観光と交通の重要性、実務面からの課題、解決策などについて実践的な知識を修得するとともに、WILLER社の学外実習を通して業務知識の深化を図る。本科目は、航空会社、観光地域づくり法人での教員自身の実務経験を活かし、現場での実例、業界における課題をテーマに講義を実施する。特に整備本部人事・労務部門、台湾支店、グランドハンドリング部門、阿寒DMOなどの責任者として培った知識、経験を授業の中で学生の皆さんに積極的に共有していく。

2. 授業の到達目標

- ① 産業の観点から観光に関連する社会現象を説明できる。
- ② 観光関連産業の問題点を発見、指摘できる。
- ③ 持続可能な観光地づくりと交通の現状と課題、今後の展望について説明できる。
- ④ テーマに即したレポート作成、プレゼンテーション、調整、総括を行うことができる。
- ⑤ 基礎的な課題認識、分析、課題解決手法を身につけ実践することができる。
- ⑥ 社会人としてのマナー、対人スキルを身につけ実践することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- ①テスト、②レポート内容、③プレゼンテーション内容、④学外実習及び授業内での取り組み度合⑤課題提出状況・評点
- ⑥グループメンバーレビューによって成績評価する。それぞれの評価割合は、①20%、②20%、③20%、④15%、⑤20%、⑥5%とする。

4. 教科書・参考文献

教科書  
テキストは使用しない。適宜資料を配付する。  
参考文献  
「観光白書」観光庁HP  
「旅行年報2021」日本交通公社 HP  
デービッド・アトキンソン著 「新・観光立国論」 東洋経済新聞社  
「日本版持続可能な観光ガイドライン」観光庁 HP

5. 準備学修の内容

新聞、TVメディアやWEB媒体などから主体的に問題意識を持って関連業界の情報収集、分析に務めること研究テーマに関する知識の習得に継続的に取り組むこと。  
課題については回答を取りまとめ期限厳守で提出すること。

6. その他履修上の注意事項

本授業の受講者は15人をめどとし、グループ分けをしたうえで、グループごとに研究対象を定め、調査・研究・解決策や展望などを模索する。なお、受講希望者が多い場合は抽選にて決定する。  
研究テーマに関する知識の習得に継続的に取り組むこと。  
受講生の積極的な取り組み、討論・発表を期待する。  
授業の進行ならびに諸般の事情により、授業計画を変更する場合がありますので、各回授業の説明に注意すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業の全体構成の解説 前期の振り返り グループ分け
- 【第2回】 観光立国政策と観光地域づくりの重要性、交通の果たす役割
- 【第3回】 観光旅行形態の変化とニューツーリズム
- 【第4回】 持続可能な観光地域づくりと日本版持続可能な観光ガイドライン
- 【第5回】 SDGsと持続可能な観光の重要性(外部講師予定)
- 【第6回】 Willer社の交通戦略とMaaS(学外実習予定)
- 【第7回】 これまでの振り返りと理解度確認テスト
- 【第8回】 グループテーマ討議・決定、グループ別調査・レポート作成1
- 【第9回】 【オンライン】レポート作成ノウハウ
- 【第10回】 グループ別調査・レポート作成2
- 【第11回】 グループ別調査・レポート作成3
- 【第12回】 グループ別中間報告、グループ別調査・レポート作成4
- 【第13回】 グループ別調査・レポート作成5
- 【第14回】 グループ別レポート発表1
- 【第15回】 グループ別レポート発表2. 総括